

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	北村 篤司
主な担当科目	教育心理学,教育相談法,臨床心理学Ⅰ,臨床心理学Ⅱ,臨床心理学特殊講義Ⅰ,臨床心理学特殊講義Ⅱ
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	授業を通じて、学生が基本的な知識や理論、考え方を自分の体験と結び付けながら理解し、一人ひとりが興味関心や問題意識をもって学びを深めるための材料、時間、場を提供する。本年度は特に、学生同士および学生と教員が協働的に学ぶ機会を充実していくことを意識する。具体的には、グループワークの枠組みや素材の提供の仕方などを工夫すること、学生の意見や希望を聞きながら授業を共に作っていくことを大切にする。
2022年の教育に関する自己評価	学生自身がテーマに関する基本的な知識を身に付け、興味関心や問題意識をもって学びを深めていけるような授業をある程度実践できた。学生が提出するコメントシートやレポート課題では、授業で扱う内容をより深めて考察されたものが多く見られた。また学生からの意見や感想を生かして、グループワークについて素材の提供の仕方を工夫したり、新しい取り組みの導入を行ったりすることで、学生のより積極的な参加につなげることができた。
2022年のFD活動に関する自己評価	全体研修会では、現在の大学の置かれている状況や課題などについて幅広く学んだ。学内組織に分かれての研修や、資格課程学内組織のFD研修会では、他の先生方から具体的な授業運用における困難や対処の工夫を伺い、授業の進め方についてより深く考えることができた。また、2022年3月に実施したFD・SD合同研修会(多様な背景を持つ学生が持続的に学べる学修環境をつくるために)の講師を務め、企画IR室職員と話し合いながら準備を行い、オンラインミーティングでのグループワークの実施など新しい方法にも挑戦した。
授業改善のために取り入れた研修内容	資格課程学内組織の研修会での他の先生方の授業の進め方や考え方についてのアイデア(対面授業とオンライン授業の違いや、オンライン授業においてどのような工夫をするかなど)を参考にして、自分の担当授業における実施方法を見直した。講師を担当した研修会の内容を教職課程の発達障がいについて取り上げる回でも活用した。基礎ゼミの学内組織FD研修会で知ったレポート課題への取り組みせ方や相互評価の方法を担当クラスでも取り入れた。

科目名－クラス名

<b>教育心理学</b>	<b>教職 A</b>
--------------	-------------

曜日時限

担当教員

月 5時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教職C**

曜日時限

月 6時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気のメカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職B

曜日時限

水 1時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気のメカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職D

曜日時限

月 4時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回



**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教養科目 A**

曜日時限

担当教員

月 5時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教養科目 B**

曜日時限

担当教員

水 1時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	20	100
				60	20	0	0		

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気のメカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教養科目C**

曜日時限

担当教員

月 6時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

教育心理学

教養科目D

曜日時限

担当教員

月 4時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	2～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回



**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。⑦教育実習に行くための条件の一つがこの科目の単位修得であり、全15回の授業に対する姿勢、意欲や努力による成果等を見て、中等科教育の教員としての資質を見る科目の一つである。  
※教職科目であり、教職課程履修者のみが履修可能。ただし、教養科目として卒業単位に含めることができるため、履修登録の際は、教養科目として開講しているクラス名が「教育心理学-教養科目A～D」の科目を選択し登録すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）  
（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。  
その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職 A

曜日時限

月 5時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職B

曜日時限

水 1時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職C

曜日時限

月 6時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

教職D

曜日時限

月 4時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回



## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

<b>教育心理学</b>	<b>教養科目 A</b>
--------------	---------------

曜日時限

担当教員

月 5時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことに触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教養科目B**

曜日時限

水 1時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか 「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育心理学**

**教養科目C**

曜日時限

月 6時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気のメカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

---

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
  - ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
  - ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
  - ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す
- 

**教科書・参考書**

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

<b>教育心理学</b>	<b>教養科目D</b>
--------------	--------------

曜日時限

月 4時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
講義	1～	前期	2	評価割合	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

教員として学校現場での教育実践や課題解決に必要とされる教育心理学の諸理論を学修する。ここでは主として「発達」と「学習」を取り上げる。発達では、発達の原理や乳児・幼児・児童・青年期の心身の発達過程の様々な特徴について学ぶ。また、「学習」では、学習の理論や仕組み、記憶や動機づけ、指導や評価の方法などについて学ぶ。学校現場での児童生徒の理解が深められ、効果的な学習指導・学習支援ができるようになることを目指す。講義のほか、グループワークやディスカッションなどの対話的な活動を通じた学びを行う。

学修成果

①発達の原理や心身の発達過程についての知識を身に付け、各発達期における身体や心、思考の特徴について理解する。またこれらの理解を教育実習や介護体験等での人への関わり方に活かすことができる。②学習の理論や仕組みに関する知識を身に付け、児童生徒の主体的な学習を促す指導へ活かすことができる。また、自らの学び方について自己点検することができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション: 教職でなぜ心理学を学ぶのか「発達」と「学習」を学ぶ意味とは
- 第2回 発達の原理: 「ひと」の発達とは何かについて理解する(発達を規定する要因、発達に関する理論、発達段階)
- 第3回 乳児期の発達: 乳児期の「ひと」としての芽生えの世界について理解する(ことばの下地づくり、感覚・運動的知能、愛着形成)
- 第4回 幼児期の発達: 幼児期の独特な心の世界について理解する(表象や象徴機能の出現、言語の発達、遊びの発達、自己中心性)
- 第5回 児童期の発達: 児童期の遊び中心から学習中心に入る世界について理解する(具体的操作思考、道徳性の発達、仲間関係の発達)
- 第6回 青年期の発達①: 青年期の身体の変化と揺れ動く心の世界について理解する(思春期、第二次性徴、形式的操作期、自我同一性)
- 第7回 青年期の発達②: 青年期に生じやすい心理面・適応面の問題について理解する(非行、精神疾患など) 課題①
- 第8回 発達の過程を考える: 発達という視点の意義、発達の多様性について考える(発達障害、セクシャルマイノリティなど)
- 第9回 学習の理論: 学習の形態やメカニズム、それを説明する理論について理解する(古典条件づけとオペラント条件づけ、ケーラーの洞察説、観察学習)
- 第10回 学習と記憶: 記憶や忘却のしくみについて理解する(さまざまな記憶、上手に覚えるためには、思い出すことと忘れること)
- 第11回 学習の動機づけ: やる気メカニズムについて理解する(欲求と動機づけ、学習意欲、学習された無力感) 課題②
- 第12回 学習のしかた: 学習のしくみについて理解する(熟達化、学習スキル、メタ認知の活用)
- 第13回 学習支援: 様々な学習の指導や支援の方法について理解する(学習指導の理論、授業づくり、協働的な学びを支える、主体的な学びを支える、学習支援)
- 第14回 学級の心理学: 学級集団の心理や集団づくりの方法について理解する(学級集団の特徴と機能、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、集団づくり)
- 第15回 教育評価: 教育評価の意義と指導への活かし方について考える(教育評価の意義と目的、教育評価の考え方と方法)
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回



## 履修上の注意

①遅刻・欠席をしないよう注意すること（教職科目のため全出席が前提です）。②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加をしてほしい。③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう（評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する）。④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。⑥学籍番号により指示されたクラスで履修すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可）。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

## 教科書・参考書

教科書：なし

参考書（購入は任意です。自分で学びを深めたい人向け）：（ア）櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社）、（イ）中澤潤編『よくわかる教育心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房）、（ウ）西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』（ナカニシヤ出版）

（ア）と（イ）は教育心理学分野、（ウ）は発達心理学分野の参考書。初回授業で持参するので実物を見てから購入を検討してもよい。

その他、参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

B

曜日時限

水 1時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
講義	2～	後期	2	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

教育相談法

C

曜日時限

担当教員

月 6時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
講義	2～	後期	2	60	20	0	0	授業内小テスト 20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

A

曜日時限

月 5時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

D

曜日時限

担当教員

月 4時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
講義	2～	後期	2	60	20	0	0	20	100

**教育到達目標と概要**

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

**学修成果**

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

**授業展開と内容**

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

**履修上の注意**

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修



すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人数が偏った場合は調整を行う可能性がある）。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

A

曜日時限

月 5時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	2～	後期	2	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

B

曜日時限

水 1時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
  - ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
  - ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
  - ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す
- 

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

C

曜日時限

月 6時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	2～	後期	2	60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修

すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
  - ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
  - ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
  - ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す
- 

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

**教育相談法**

D

曜日時限

担当教員

月 4時限

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				60	20	0	0	20	100

教育到達目標と概要

少子高齢化、グローバル化、多様化の加速する社会変化に伴って、学校現場でも様々な課題や問題が生じてきており、心理面、適応面において困難をかかえる児童生徒も多くなっている。教師はこうした生徒をどのように理解し、援助したらよいのだろうか。本授業では、学校教育相談における実践的な指導・援助活動について学び、教育相談を行う上で必要な知識や基本的な技法を身に付ける。講義のほか、グループによる話し合いやロールプレイなどの実習を通して学びを深める。

学修成果

①学校における教育相談の意義と課題について理解する。②カウンセリングの基本的な知識・態度・技法を修得し、実際の相談場面で活用することができる。③児童生徒の抱える課題や困難を多面的な視点から把握し、連携を行いながら教育相談を進めていく方法について理解する。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校教育相談をなぜ学ぶのか、何を身に付けるのか
- 第2回 学校教育相談の意義と課題:学校教育相談の意義、学校教育相談の課題、教育相談において活用する理論やアプローチ、児童生徒のサインに気付く
- 第3回 児童生徒の理解①:教育相談の進め方、どのように児童生徒の問題を理解するか
- 第4回 カウンセリング理論と実際:カウンセリングマインド、カウンセリングの基本姿勢、傾聴の実習 課題①
- 第5回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり①:カウンセリングの対話の分析、会話を促進する応答を考える
- 第6回 カウンセリングの技法とカウンセリング的かわり②:自己理解を深める、エゴグラムの実施、価値観の多様性について考える
- 第7回 不登校の児童生徒への対応:不登校の定義と実態、不登校のタイプ、不登校対応のポイント、事例検討
- 第8回 いじめに関する児童生徒への対応①:文部科学省の定義、いじめはなぜ起こるか、事例検討
- 第9回 いじめに関する児童生徒への対応②:いじめ対応の基本姿勢を理解する
- 第10回 問題行動や非行への対応:問題行動・非行の実態、問題行動の捉え方と理解、対応のポイント
- 第11回 発達障害のある児童生徒への対応:発達障害のある児童生徒の理解と支援、事例検討 課題②
- 第12回 児童生徒の理解②:多様な視点からのアセスメント、児童生徒の育つ環境の理解(貧困、虐待など)
- 第13回 学校教育相談の実際①:児童生徒に対する相談の進め方、校内の相談体制の整備、連携の意義と必要性(専門機関など)
- 第14回 学校教育相談の実際②:保護者に対する相談の進め方、連携の意義と必要性(家庭、専門機関など)
- 第15回 教員のメンタルヘルス:教員のメンタルヘルスの現状、教員のメンタルヘルス不調の背景と対処、精神疾患の理解と対応、セルフケア
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

- ①遅刻・欠席をしないよう注意すること(教職科目のため全出席が前提です)。
- ②目的意識を持ち、講義内でのワーク・グループ活動など積極的に参加してほしい。
- ③毎回授業内容について振り返り、コメントシートを記入してもらう(評価方法の「授業内小テスト」に相当し、受講態度と共に授業への参加状況を評価する)
- ④レポート課題は、指定された期限内に必ず提出すること。
- ⑤各回に参考資料を配付するので各自で資料を管理すること。
- ⑥学籍番号により指示されたクラスで履修



すること（ただし必修科目等との重複があれば他のクラスでの履修も可。人

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・各回にレジュメ・資料を配付し、復習のポイントを提示する。授業後に復習して理解を深めること（各回60～120分程度）。
- ・日頃から教育の現状について興味関心を持ち、新聞記事やニュースなどを通して学校現場や児童生徒のことについて触れるように心掛けること。
- ・適宜参考書を紹介するので、関心をもったものを読み、積極的に学びを深めること。
- ・2回レポート課題を出すので、テーマに対して主体的に文献調査、問いの設定と探求、考察等を行うこと。レポート課題およびコメントシートについて希望者にはコメントをつけて返却す

#### 教科書・参考書

- ・教科書：なし
  - ・参考書（購入は任意、自分で深く学びたい人向け）：文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社）、向後礼子他著『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- 参考資料は各回ごとに配付する。

科目名－クラス名

## 臨床心理学Ⅰ

## 曜日時限

火 2時限

## 担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	20	0	0	80	100

## 教育到達目標と概要

臨床心理学では、生きていく上での心の悩みや問題を抱えた人をサポートすることを目指します。臨床心理学Ⅰでは、悩みや問題をどのように理解するかということを中心に学びます。実習やグループワークなど体験的な学修も行いながら、臨床心理学の基礎的な知識を幅広く学びましょう。

## 学修成果

精神疾患・生涯発達の理論・発達の障害などの知識とともに、臨床心理学において問題をどのように理解するかを学ぶことができます。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：臨床心理学とは何か
第2回	問題を理解する（1）：面接法、観察法
第3回	問題を理解する（2）：検査法
第4回	問題を理解する（3）：応用行動分析、機能分析
第5回	精神疾患の理解（1）：心理的な異常とは何か（診断分類）、薬物療法
第6回	精神疾患の理解（2）：不安障害、身体表現性障害、解離性障害
第7回	精神疾患の理解（3）：気分障害
第8回	精神疾患の理解（4）：統合失調症
第9回	精神疾患の理解（5）：パーソナリティ障害・摂食障害
第10回	生涯発達（1）：乳幼児期・母子支援
第11回	生涯発達（2）：児童期・思春期・青年期
第12回	生涯発達（3）：中年期・老年期・家族（課題）
第13回	生涯発達（4）：発達の多様性（知的障害・発達障害などを含む）
第14回	研究法：臨床心理学における研究のやり方／事例検討
第15回	授業のまとめ：問題をどのように理解するか（授業内小テスト）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

## 履修上の注意

音楽療法コース・音楽教養コース2年生（以上）対象の講義です。他学科の学生は受講できませんのでご注意ください。授業は、パワーポイントを用いた講義のほか、実習やペア・グループでのワークなどの体験的な学修を中心に行いますので、積極的に参加してください。毎回、授業の体験を振り返り、コメントシートを記入してもらいます（成績評価の授業内小テストの30%分に該当します）。第15回の授業で、本科目全体についての授業内小テストを実施します（成績評価の授業内小テストの50%分に該当します）。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・授業時にレジュメや資料を配付するので、教科書の該当ページと合わせて授業の前後に読み、理解を深めてください（各回60～120分程度）。
- ・レポート課題を出すので、期日までに提出してください。レポートは希望者にはコメントをつけて返却します。
- ・第15回に実施する授業内小テストについては、実施後に解説を行います。
- ・心理・教育・医療・福祉・司法など様々な分野に関心を持ち、社会的な活動に参加したり、いろいろな文学・芸術作品に触れたりしてみてください。自分の感性を磨き、多様な視点を持つことが、相手のこと

### 教科書・参考書

教科書（授業でも時々参照しますので購入してください）：下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』（ミネルヴァ書房）  
その他、適宜参考資料を配付したり、紹介したりします。

科目名－クラス名

**臨床心理学 II**

曜日時限

火 3時限

担当教員

北村 篤司

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	3～	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				50	20	0	0	30	100

教育到達目標と概要

臨床心理学 II では、臨床心理学 I で学んだ発達や精神疾患に関する知識を活かして、様々な立場に基づいた理論や問題への介入技法について学びます。また、グループワークやロールプレイ等の実習によって、自分自身の体験（自分の内側に感じられるもの）や、自分と異なる他者の視点や考えに触れることを通じて学びを深めていきます。

学修成果

臨床心理学において問題にどのように介入していくかという理論や技法を学修することができます。また、グループワークや事例検討のディスカッションを通じて、自分や他者に対する見方や価値観に気づき、人間やその関係性を理解する多様な視点を身に付けることができます。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション：臨床心理学 I の復習、「支援する」とはどういうことか

第2回 心の問題への介入①：クライエント中心療法

第3回 心の問題への介入②：精神分析、分析心理学

第4回 心の問題への介入③：行動療法、認知行動療法

第5回 心の問題への介入④：家族療法

第6回 心の問題への介入⑤：ナラティブ・セラピー、コミュニティ心理学

第7回 心の問題への介入⑥：様々な介入技法

第8回 介入技法の体験：ロールプレイ（質問と傾聴）（課題）

第9回 グループを通じた関わりや支援①：コミュニケーションと自己理解・他者理解

第10回 グループを通じた関わりや支援②：集団療法、セルフヘルプ・グループ

第11回 心理士の職域と社会的連携、援助専門職になること

第12回 事例から学ぶ①：クライエントを理解する、理解を調整する

第13回 事例から学ぶ②：様々なアプローチから事例を考える

第14回 事例から学ぶ③：当事者研究の事例検討

第15回 事例から学ぶ④：当事者研究の体験／まとめ

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

音楽療法コース・音楽教養コース3年生（以上）対象の講義です。他学科の学生は受講できませんのでご注意ください。授業は、パワーポイントを用いた講義のほか、実習やグループワークなどの体験的な学修を中心に行いますので、積極的に参加してください。毎回、授業の体験を振り返り、コメントシートを記入してもらいます（成績評価の授業内小テストに該当します）。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・授業時にレジュメや資料を配付するので、教科書と合わせて授業の前後に読み、理解を深めてください（各回60～120分程度）。
  - ・レポート課題を出すので、期日までに提出してください。レポートは希望者にはコメントをつけ返却します。
  - ・心理・教育・医療・福祉・司法など様々な分野に関心を持ち、社会的な活動に参加したり、いろいろな文学・芸術作品に触れたりしてみてください。自分の感性を磨き、多様な視点を持つことが、相手のことを理解する上でも財産になると思います。
- 

### 教科書・参考書

教科書（授業でも時々参照しますので購入してください）：下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』（ミネルヴァ書房）

参考書（購入は任意です、自分で違った視点からも学びたい人向け）：岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美著『臨床心理学入門—多様なアプローチを越境する』（有斐閣アルマ）

その他参考資料を配付したり、紹介したりします。

## 2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2902 教員名：北村 篤司

### 1) 評価結果に対する所見

教育心理学：4クラスの全体平均を、今学期の全科目平均に比べると Q5, Q6, Q7, Q9, Q10 が 0.1 以上高く、残りはほぼ変わらなかった。昨年度結果と比べると、Q6 が 0.15 減少、それ以外は 0.1 以内の変化であった。記述回答では、「今まで心理学に関心を持ったことがなかったのですが、毎回の授業が本当に興味深く楽しい」「何か自分自身の考え方に新たなパズルのピースが加わったような気持ちになりました」などのコメントがあり、授業を通して興味を持ったり、考え方を広げたりしている学生がいることが励みになった。臨床心理学 I：全体平均との比較では、全ての項目で平均を上回り、昨年度との比較では、Q4, Q7 が低下し、それ以外の項目は上昇した。特に Q8「予習・復習」が 3.41 と高かったのが特徴的である。今回受講者の 66%にあたる 12 名がアンケートに回答しており、Q9 と Q10 の評価が 4 だった点は非常に良かったが、今年度の受講生が予習・復習も含めて熱心に学修に取り組んでくれたことが関係していると思われる。

### 2) 要望への対応・改善方策

教育心理学では、「コメントシートを書く時間が少し少ない気がする」というコメントがあった。コメントシートについて、「自分の考えや授業への質問を書けるのが嬉しい」「次の授業で紹介して頂けるので、そこで自分と違った意見を発見する事で新たな学びを得られる」という意見もあり、十分に時間をとれるように努めたい。また、遅刻・欠席の教え方について、15 分以上遅刻した場合は欠席とカウントすること（第 1 回授業で説明）について、遅れてでも頑張って来た人と、欠席している人は違うのではないかという意見があった。教員免許を修得する上で、定められた授業内容全てを学修することが必要であり、実習では当然遅刻はできないため、遅刻・欠席について厳格にカウントしているが、遅れても来てコメントを提出すれば一定の評価をしている。来年度は 1 回目の授業でそのことをより丁寧に説明したい。

臨床心理学では、アンケートでの要望はなかったが、授業のコメントシートで、プリントの( )部分が広いと見やすい・書きやすいという意見があったので来年度留意する。

### 3) 今後の課題

映像を用いた学修、自分の考えを深める機会（コメントシートやレポート）、他者の意見に触れる機会（グループワーク）など、多様な学修方法を組み合わせつつ、それぞれのクラスの学生の様子に合わせて、より柔軟にアレンジをしていきたい。

以 上

## 2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2902 教員名：北村篤司

### 1) 評価結果に対する所見

2022年度は受講者が85名いたが、講義を実施した時期が4月下旬で授業評価アンケート実施時期とかなりずれていることがあり、授業内でもアンケートに回答するようにアナウンスもしたが、回答者は9名であった。

全体平均と比較すると、どの質問でも平均を上回っていた。昨年度と比べても数値が上昇したものが多かった。

### 2) 要望への対応・改善方策

授業で提出された学生からのコメント用紙では、障害体験のワークや、実践例の紹介、具体的な事例に対するグループでの支援計画や指導案の作成などを有用と感じたというコメントが見られた。「実際の教育現場における実践例等について、授業内で取り上げていただくとさらに勉強になったと思う」という意見があり、これまでも現場での実践例を取り上げてきたが、より充実させていきたい。「グループ活動なども多く、非常に実践的な学びができた」「学修した内容を(介護等体験で)活かせるよう引き続き勉強したい、というコメントもあり、学生が、特別支援学校での介護等体験とのつながりを意識して学びを深められるようにしていきたい。

### 3) 今後の課題

体験的なワークやディスカッションを通じて理解を深めていきたい部分がある科目だが受講者が多いため、ワークの内容ややり方など引き続き工夫していきたい。

また、集中講義の日程と授業評価アンケート実施時期が離れてしまっているため、授業評価アンケートの回答率を高めるよう声かけも続けたい。

以 上

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2902 教員名：北村 篤司

### 1) 評価結果に対する所見

教育相談法：月4・月5・月6・水1の4クラス開講で、フィードバックのあった3クラスの評価の平均値について全体平均と比較すると、0.1以上差があった項目はQ4出席状況が平均を上回り、Q5興味関心、Q8予習復習、Q9見方の広がり、Q10が平均を下回った。前年度の数値と比較すると、全体的に数値が低下し、特にQ8・Q9の変化が大きかった。授業内容や進め方に大きな変更はしていなかったが、数値が下がったため、原因や背景を分析し、改善を考えたい。例年に比べ、本授業のテーマに対する学生の興味関心が高くなく、それを高められなかったこと、本授業ではグループワークやロールプレイを多く行うがその楽しさや意義を実感してもらえなかったことなどが課題として考えられる。

臨床心理学Ⅱ：全体平均の数値と比較すると、Q4・8が0.1以上低く、Q5、Q6、Q7、Q9、Q10は高くなっていた。昨年度に比べると出席状況以外は数値が高く、特に見方の広がり4点だった点は良かったと思われる。

### 2) 要望への対応・改善方策

教育相談法では、自由記述で「動画で様々なケースを見るのがいいと思った」が、「全体的にもう少し音量を下げたい」というコメントがあった。音量面について配慮するとともに、学生に適宜問いかけを行い、学生が授業を受ける環境について希望を言いやすい環境を作りたい。また、できるだけ多くの学生が授業の内容・テーマに興味をもつきっかけ作りの工夫を行いたい。グループワークについて、昨年度は学生からの提案を取り入れアイスブレイクを設けるなどしたが、より多様なワークの形式を取り入れて学生が飽きないように工夫したい。また、ワークの狙いや授業で学んでほしいことをより明確に学生に伝えるように意識したい。

臨床心理学Ⅱでは、「フィードバックをいただき気づきがあります」というコメントがあった。希望者にはコメントを個別にフィードバックするやり方を続けたい。自由記述に「楽しい授業です」というコメントがあり、楽しい雰囲気作りも引き続き大切にしたい。

### 3) 今後の課題

教育相談法、臨床心理学ともにワークやロールプレイ、ディスカッションなどが学修において非常に重要となる科目である。毎年クラスのメンバーによって、授業やグループワークの雰囲気が異なるが、クラスの特徴を掴んだ上でそれに合うやり方を試行錯誤し、学生と共に良い授業を作っていきたい。

以上